

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1026.00	2022/3/21
High	1047.00	2022/3/22
Low	1001.00	2022/3/25
Close	1004.50	2022/3/25

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3931.00	2022/3/21
High	4063.00	2022/3/24
Low	3929.00	2022/3/25
Close	3941.00	2022/3/25

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2487.00	2022/3/21
High	2610.00	2022/3/21
Low	2306.00	2022/3/25
Close	2339.00	2022/3/25

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	9516.00	2022/3/21
High	10056.00	2022/3/21
Low	9056.00	2022/3/21
Close	9179.00	2022/3/25



ニュースエクスプレス

ロンドン金属取引所、ロシアの金属取引停止を政府と検討中

ロンドン金属取引所（LME）最高責任者とイギリス政府は、ロシアの金属の保管庫へのデリバリーを禁止するかどうか検討中であるとブルームバーグが伝えた。

「我々はウクライナ情勢に対して非常に危機感を感じており、LMEが残忍な行為の資金源とならないようにするつもりだ。」と LME最高責任者のMatthew Chamberlain は3月22日のビデオインタビューで語った。

同氏は、LMEの方針は政府の対ロシア制裁の方策に従うとし、現時点ではロシアの金属は制裁対象ではないため、保管庫のネットワークを通じて流通しているが、変更はありうると示唆した。

「我々は政府と密に連絡を取って、マーケットの懸念を伝えており、どのような結論が出るか見守っている。」

銅、ニッケル、アルミニウムの国際市場取引の主要プレーヤーであるロシアからの供給が停止すれば、これらの金属取引には大きな影響を及ぼす可能性がある。

「我々の保管庫を通じたロシアの金属の流通禁止を決定すれば、それは我々のビジネスだけではなく、マーケット全体が取る選択ということになる。」と同氏は語る。

ロシアのウクライナへの軍事侵攻に対し、米国と西側諸国は金融システムからロシアを締め出して貿易ができなくなるよう、対ロシア制裁を発動させた。それに加えて、制裁に反発してロシアが輸出を止める可能性もあり、サプライチェーンの停滞への懸念が高まっている。

このような懸念がコモディティ市場を揺るがし、金属価格、特にニッケル価格の高騰を招いている。ロシアは、パラジウムは世界第一位、プラチナは世界第二位、ニッケルは世界第三位の資源生産国である。

145年の歴史をもつLMEはニッケル価格が乱高下する混乱の中、非難にさらされている。

LMEは3月9日、1988年以来初めての措置となるニッケル取引の取引停止に踏み切り、\$39億ドル 相当の取引をキャンセルした。ニッケルは大量の踏み上げ後、数時間で1トン 10万ドルにも急騰。取引は翌週再開されたが価格安定化のため値幅制限が設定された。

3月21日にはニッケル価格は15% 下落して1トン 3万1380 ドルとなり、下限額に初めて達したときに値幅を広げたにもかかわらず、3セッション連続で下限額をつけた。

<https://africa.businessinsider.com/markets/the-london-metal-exchange-is-weighing-a-ban-on-russian-metals-and-is-in-talks-with/vbwx889>

白金、需給引き締め観測 中国、異例の大量輸入 車触媒の代替需要見据え

ディーゼル車などの排ガス浄化触媒に使うプラチナ（白金）の需給に引き締め観測が出ている。国際的な統計では2021～22年の供給が需要を上回る見通しのなか、中国が将来を見据えて実需以上に輸入している。ロシアのウクライナ侵攻を受け、自動車触媒は、世界の4割がロシア産のパラジウムから白金へとシフトする動きが加速する可能性もある。

国際調査機関のワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）によると、21年の中国の輸入量は輸出量を引いたネット109トン。中国国内の需要量68トンを超えて40トン強も超過するほど輸入の勢いは強い。

21年の世界の白金需要は20年比9%減の218トン。対して鉱山採掘やリサイクルなどを合わせた供給量は21%増の256トンと38トンの供給超過だ。計算上、中国の輸入量は世界の供給超過分を吸収した形だ。

市場では中国の大量輸入の意図について臆測が飛び交っている。

中国勢が将来に備え、白金を調達し貯蔵しているとの観測がある。白金は燃料電池車（FCV）など脱炭素で有力視される水素技術に不可欠で、この先需要が増えるとの予想があるためだ。

他の貴金属に比べ白金が割安なため、「中国の実需筋が必要以上の量を買集めている可能性がある」（日本貴金属マーケット協会の池水雄一氏）との見方もある。

独自自動車大手フォルクスワーゲンの排ガス不正問題などによるディーゼル車離れで白金価格は18年以降、ガソリン車の排ガス浄化触媒に使うパラジウムを下回る。足元は1トロン1000ドル強とパラジウムの半分以下だ。

触媒メーカーなどによれば、中国ではガソリン車用排ガス浄化触媒で、高値のパラジウムから安い白金への代替も進む。その影響もあって、フルヤ金属の桑原秀樹取締役は「中国が22年に鉱山会社から調達する白金は3割増え、パラジウムは3割減るようだ」と話す。

白金への乗り換えの動きは、ロシアのウクライナ侵攻が響き、中国以外にも広がる可能性がある。米欧の対ロ制裁でパラジウムはロシアからの供給に懸念がくすぶる。

「排ガス浄化装置について、白金への仕様変更は数年単位で時間がかかる」（触媒メーカー）。だが、西側諸国がロシアへの資源依存を避ける方向に動けば、中国以外でも代替が進む可能性がある。ロシアの白金生産は世界の1割超で、パラジウムより依存度は低い。

WPICは22年も供給が需要を20トン上回ると予想する。統計上は需給は緩むはずだが、現物市場では引き締まりの兆候が出ている。現物を貸し借りする際の借り賃にあたるリースレートは高止まりしている。米先物取引所の在庫を引き出す動きも21年夏以降続く。中国の過剰輸入やロシア問題が長引けば、白金価格を押し上げる可能性がある。

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ059369220U2A320C2QM8000/?unlock=1>

Translated by JBMA Osawa KAZUKO



WPIC直近の活動

- 東日本旅客鉄道（JR 東日本）は、今月末に水素を燃料とする燃料電池を搭載した国内初の車両の試運転を開始する。詳しくは [プラチナ豆知識「列車の脱炭素化」](https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/WPIC_60seconds_Decarbonising_trains_03232022.pdf)（2022年3月23日）をご覧ください。

https://platinuminvestment.com/files/sixtysecs/WPIC_60seconds_Decarbonising_trains_03232022.pdf



@woicjapan